

群馬大学広報誌

[グッデイ]

# GU'DAY

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENTNEWS

## 国立大学法人群馬大学 創基150周年記念式典



—群馬大学は2023年に創基150周年を迎えました—



# 駆けろ未来へ

# 150年の歴史と共に



### 特集 | 創基150周年記念式典・記念事業

- ★ 荒牧キャンパス紹介
- ★ 輝く群大生
- ★ キャンパスライフ～イマドキ！留学事情～



群馬大学広報誌

[グッデイ]

GU'DAY

VOL.14 2024

Spring

IS NATIONAL UNIVERSITY CORPORATION GUNMA UNIVERSITY'S MAGAZINE THAT PROVIDES RECENT NEWS



©2024 Fumiya Osawa. All Rights Reserved.

写真の説明

2024年に群馬大学は創基151年目を迎え、未来に向け新たな1年目がスタートします。その夜明けをイメージして群馬県邑楽郡板倉町の川岸で撮影しました。

## Contents

- |      |                     |      |                          |
|------|---------------------|------|--------------------------|
| p.04 | ●創基150周年記念式典・記念事業報告 | p.14 | ●キャンパスライフ<br>～イマドキ！留学事情～ |
| p.05 | ●研究紹介               | p.16 | ●群馬大学最新ニュース              |
| p.09 | ●荒牧キャンパス紹介          | p.18 | ●群馬大学基金                  |
| p.10 | ●輝く群大生              |      |                          |

150th anniversary

# 創基150周年記念式典・

## 記念事業を開催しました

群馬大学は、2023年に大学の起源となる「小学校教員伝習所」設立から150年を迎え、11月25日に創基150周年記念式典を荒牧キャンパスで開催しました。



開式挨拶



祝歌

### 11月25日(土)記念式典

石崎泰樹学長の開式挨拶に続き、文部科学大臣(代理)、国会議員、群馬県知事ほか来賓の皆様から祝辞が述べられました。続いて、学生代表(共同教育学部4年山本桜子さん)による祝辞、共同教育学部音楽専攻の教員・学生による祝歌が披露され、最後に多田栄介氏(ITER/QST名誉フェロー・前ITER国際機構長・群馬大学名誉博士)による記念講演が行われました。国際機関でのご経験をふまえ、学生たちに対して、世界で活躍するための夢のあるメッセージが示されました。



記念講演

### ■学生企画「みんな集まれコミュニティcafe」



高校生や地域の方と交流する在学生

### 11月26日(日)記念事業

記念事業には本学学生の他、中学生、高校生や近隣住民の方々などが多数参加されました。

#### ■令和4年度ベストティーチャー賞 表彰式・公開模擬授業



公開模擬授業  
「集積回路(LSI)の秘密」  
理工学府 弓仲康史教授

教育実践に顕著な成果を上げた教員に対して授与される群馬大学ベストティーチャー賞の表彰式と、11名の受賞者のうち3名による公開模擬授業が行われました。

#### ■令和5年度ディスティングイッシュト・ヤングリサーチャー称号授与・記念講演

研究活動に顕著な成果を上げた若手教員(45歳未満)に対してディスティングイッシュト・ヤングリサーチャーの称号授与式があり、10名の受賞者のうち3名による記念講演が行われました。

#### ■学生企画「群大卒業生によるトークセッション」



本学教育学部卒業生であり、プロバスケットボールチーム・群馬クレインサンダーズの阿久澤毅氏とのトークセッション

#### ■シンポジウム

「変革の時代の大学～産・学・官で考えるこれからの教育とDX～」  
産学官の各界からのパネリストの講演ののち、現代社会で大学や学生が果たす役割等についてパネルディスカッションが行われました。

パネリスト

- ・浅尾 高行氏  
(信州大学バイオメディカル研究所教授・群馬大学名誉教授)
- ・宇留賀 敬一氏  
(群馬県副知事)
- ・神保 良弘氏  
(株式会社CATENAS代表取締役・信州大学特任教授)
- ・伊藤 祥子氏  
(日本ミシュランタイヤ株式会社執行役員 研究開発本部新規事業部長)



## 駆ける未来へ

150年の歴史と共に

—群馬大学は2023年に創基150周年を迎えました—

今回は、「ディスティングイッシュト・ヤングリサーチャー」として表彰され、創基150周年記念事業で講演をされた3名の教員の研究についてご紹介します。

## ディスティングイッシュト・ヤングリサーチャーとは？

研究活動に顕著な成果を上げた若手教員(45歳未満)に対して、群馬大学ディスティングイッシュト・ヤングリサーチャーの称号を授与し、その業績を表彰し、広く周知することにより、本学における若手教員の意欲向上、研究の推進及び社会への貢献に資することを目的としています。

### Distinguished Young Researchers



情報学部 情報学科  
青山 一真 准教授

「バーチャルリアリティ・セカイの作り方・使い方」  
▶研究分野：バーチャルリアリティ、神経工学



理工学府 分子科学部門  
神谷 厚輝 助教

「人工細胞創成に向けた要素技術の開拓」  
▶研究分野：生体関連化学、構成的生物学



生体調節研究所 粘膜エコシステム制御分野  
佐々木 伸雄 教授

「腸内細菌を利用した組織幹細胞デザイン学」  
▶研究分野：幹細胞生物学、腸内細菌のチカラを応用した腸内デザイン

### ■その他の受賞者一覧

島 孟留 講師	▶所属：共同教育学部 保健体育講座 ▶研究分野：運動生理学、脳機能の維持・向上に貢献する生活習慣の探求
一ノ瀬 聡太郎 助教	▶所属：大学院医学系研究科 基礎・基盤医学領域 機能形態学講座 ▶研究分野：神経細胞生物学、神経解剖学
小金澤 紀子 助教	▶所属：大学院医学系研究科 基礎・基盤医学領域 薬理学講座 ▶研究分野：神経科学
栗田 伸幸 准教授	▶所属：大学院理工学府 電子情報部門 ▶研究分野：自動制御工学、磁気浮上技術の人工心臓への応用
新木 健一郎 講師	▶所属：医学部附属病院 肝胆膵外科 ▶研究分野：肝胆膵外科学、肝切除基準・低侵襲肝切除・サルコペニアの研究
尾池 貴洋 講師	▶所属：医学部附属病院 放射線治療科 ▶研究分野：腫瘍放射線学、放射線がん治療の生物学的高精度化
二村 圭祐 教授	▶所属：未来先端研究機構 ▶研究分野：ゲノム生物学、腫瘍生物学、遺伝子治療学



受賞者と石崎学長

# バーチャルリアリティ —セカイの作り方・使い方—

情報学部 情報学科 青山 一真 准教授

## ■研究概要

**バーチャルリアリティ (VR)**とは体験を人工的に作り出す技術のことです。私たちは、光や音といった物理現象を目や耳などの感覚器で捉えています。また、自らが筋肉などの効果器を使ってセカイに働きかけ、その様子を変えることができます。これが繰り返されることで、体験が成立します。VRとは『セカイ』をつくる技術ともいえます。

VRの研究には、セカイを作る研究と作ったセカイを使う研究の2つがあります。まず、神経への刺激でセカイを作る研究をしています。電極を服に貼り付けて微弱な電流を流し、この電気刺激を用いて感覚を作り出します。これを**神経刺激インタフェース**と呼びます。例えば、耳の後ろに電極を貼り付けて前庭を刺激すると、そこには存在しないはずのバーチャルな感覚を作ることが出来ます。これをジェットコースターの映像と連動させると、より臨場感のある体験が出来ます。前庭電気刺激の他にも、味覚や嗅覚などの様々な感覚を作る研究を行っています。最終的には、このような感覚を作るだけでなく、これらをみんなが体験できるVRの形にすることを目指しています。

次にセカイを使う研究として、**教育と訓練**をテーマに研究を行っています。ヒトは体験をすることで記憶に残りやすくなるためです。例えば、教授の顔を別の人の顔に変えて授業を行った時や、メタバース空間で集まって、自由に動きながら授業をした時の学習効果について研究しています。学校教育以外にも、サービス産業においてコミュニケーションを訓練するためのシミュレータとして活用する研究も行っています。



### ▲青山先生による講義動画

<https://doga.yumenavi.info/Lecture/PublishDetail/2023003061?back=>  
神経刺激インタフェースの技術を歩いている人に適用すると、歩いている人の方向が変わってしまいます！（動画開始17分頃から）



▲サービス産業のための接客訓練シミュレータ

## Q & A

### Q 研究の動機は何ですか？

A もともとは**ブレイン・マシン・インタフェース (BMI)**という、脳と機械を直接つなぐような装置を作りたいと考えていました。BMIには、人間が考えた情報を機械が受け取って動くという**出力型**、機械が人間の感覚を設計して、人間に情報を入れてあげるとい**入力型**の2つの流れがありますが、入力型のほうにずっと興味がありました。BMIは出力型の研究が多いのですが、自分で作るなら、**みんなが使える一般的な技術**を作りたいと考えました。その方が、より多くの人々が幸せな体験をできると思ったからです。そこで、VRの研究をはじめました。そして、VRのようなBMIを作ろうとしたときに、電気刺激を使って感覚を作るという研究をするようになりました。

### Q どのようなことを目指していますか？

A 最終的には、簡単に言うと**アニメやSFに負けない、勝つような技術**を作りたいです。それだけではなく、このようなすごい技術を**みんなが使える一般的な技術**として作りたいです。一般的な技術として普及すれば、誰もが幸せな体験をすることができ、それが幸せな生き方につながるのではないかと考えるからです。その思いで、VRと感覚を作る電気刺激を組み合わせた研究を行っています。

このコーナーの取材を担当した  
学生広報大使



普段お会いする機会のない先生方と、研究の内容や裏話などたくさんお話することができ、とても楽しくて貴重な経験になりました。群馬大学にはこんなに面白い研究をされている先生がいるということを知っていただけたら幸いです。ありがとうございました！

医学部 保健学科1年

関口 知香

# 人工細胞創成に向けた要素技術の開拓

理工学府 分子科学部門 神谷 厚輝 助教

## ■研究概要

この研究は、人工的に作られた細胞膜であるリポソームにタンパク質などの細胞の中にある分子を配置することで**生物の生理現象を再現**するというものです。しかし、適切にこのような分子を配置しないと生理現象の再現はできないため正しく配置する必要があります。これまでに、外部の刺激を受けるセンサーである膜タンパク質をもったリポソーム形成や、内側と外側で異なった物質からできている自然には存在しないリポソームの作成に成功しました。このリポソームを利用することで簡単に分裂する人工細胞の形成に成功しました。

現在進めている研究は、**外部の刺激を膜タンパク質が受け取ってリポソーム内において反応が起動できる人工細胞の作製**です。例えば、外部環境の変化に応じて、特定の物質生産や膜の変形などの反応を起こせるようになることを目指しています。



## Q & A

**Q なぜこの研究をしようと思ったのですか？**

**A** 学部3年生までは何をやりたいかが決まっていなかったが、学部4年生で研究室に配属され人工細胞モデル研究を知り、興味を持ち研究を始めました。研究をしていくうちに自らの手で設計できる人工細胞研究が楽しくなってきて、生命の起源を明らかにしたいとか、複雑な機能をもつ人工細胞を創りたいと思うようになり、今に至っています。

**Q 今後どのようなことが可能になると思いますか？**

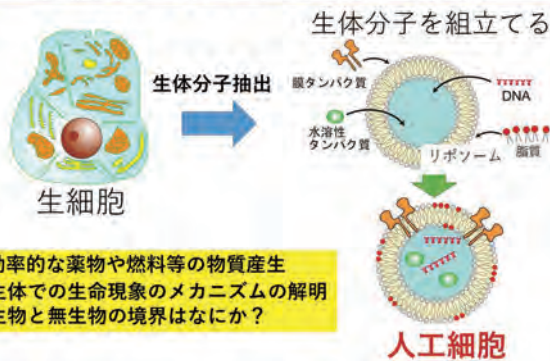
**A** 将来的には生きている人間の細胞の一部を人工細胞と交換したり、人工細胞を取り入れることで**癌の特定や癌の治療**が期待されます。また、一度崩したものを再度組み直すことによって、**生理現象のプロセスを詳細に理解することも可能**となります。

**Q 現在進めている研究での課題や必要なことは何ですか？**

**A** 現在のところ細胞には到底及びません。例えば、私が作製した人工細胞では、現在、分裂が1回しかできていません。複数回分裂を行うたびに人工細胞がだんだんと小さくなっていくので、細胞のように分裂した後に大きくすることが必要です。そのために人工細胞自身で膜成分を作製するためにエネルギーが必要です。**自分でエネルギーをつくれるかどうか**が**細胞と人工細胞の違いのひとつで、その克服が課題**となっています。

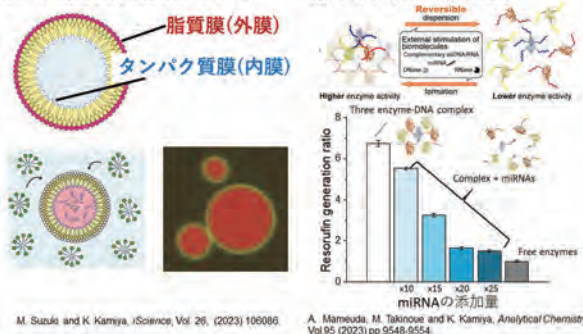
## 人工生命システムの作製研究

細胞機能をゼロからデザインする技術(構成的生物学)



## 外部変化に応答して起動するシステム構築

リポソーム膜を凌駕するリン脂質/ DNAを介した酵素の近接と解離  
タンパク質非対称膜ベシクルによる高効率な酵素反応



このコーナーの取材を担当した  
学生広報大使



大学の研究に関わったのが初めてだったのでとても難しく感じましたが、神谷先生がわかりやすく具体例などで説明してくださったので、研究に興味を持って取材をすることができました。

理工学部 物質・環境類1年  
柴田 倭吹

# 腸内細菌を利用した組織幹細胞デザイン学

生体調節研究所 粘膜エコシステム制御分野

佐々木 伸雄 教授



## ■研究概要

日本は超高齢化社会であり、それに伴って生活習慣病などの加齢に関連する疾患のリスクが増大しています。老化に伴う大きな変化のひとつに**腸内環境の変化**があります。ビフィズス菌などの善玉菌が減少し、大腸菌やウェルシュ菌といった悪玉菌が増加することにより、ムチンゲルと呼ばれる腸管を保護するバリアが減少します。この結果、腸管の細胞が直接細菌に感染しやすくなり、感染症や大腸炎の原因となってしまいます。

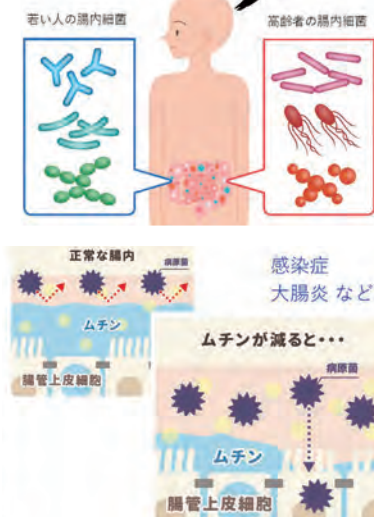
では、どのようにして腸内細菌が私たちに影響を与えるのでしょうか。腸の中にはムチンバリアを作る細胞やホルモンを作る細胞を作り続けている幹細胞があります。腸内細菌のバランスが崩れると、その細胞の恒常性も変化することが分かってきました。**腸内細菌で幹細胞の状態をコントロールし、腸内環境のバランスを改善すること**を目標に研究を行っています。

そこで、私の得意な技術の一つである組織幹細胞培養(オルガノイド)を利用して研究を進めています。この**オルガノイド培養法**のすごいところは、ヒトやマウスの腸からたった1個の幹細胞さえ入手できれば、それをカラダの外で培養して、3次元構造体の腸(臓器)を作ることができる点です。この人工的に作成した腸の細胞にビフィズス菌を投与したところ、腸の表面のムチンバリアが大幅に増加することも確認されています。現在、このメカニズムを証明するための研究を進めています。

## 疾患の原因は腸内環境の変化に伴う生体防御機能の低下

加齢関連疾患の増加

老化:腸管バリアの脆弱化



## Q & A

Q なぜ腸内細菌に注目したのですか?

A もともと、発生学を専攻し、幹細胞について研究をしてきました。オランダに留学し、幹細胞を操作する技術であるオルガノイド培養法について研究を行っていました。帰国後、研究者として独立する上で、**他の研究者と異なるオリジナルな研究をしたい**と考えて注目したのが、腸内細菌です。日本には古くから漬物や納豆などの発酵の文化があり、微生物や腸内細菌を研究している優秀な研究者がいることや腸内細菌は今も分かっていないことが多いことから、今まで研究してきたオルガノイド培養法を利用し、他分野の先生と協力して腸内細菌について研究しようと考えました。

Q 将来的にどのようなことを目標に研究していきたいですか?

A 目標の一つとして、**誰の腸にでも定着できる、機能性のある菌を発見したい**と考えています。腸内細菌は人によってさまざまであり、菌を定着させるのは簡単なことではないからです。もっと大きなことだと、**最終的には病気ゼロの社会を作ることが理想です**。大腸癌や糖尿病、アレルギー疾患など様々な病気に腸内細菌が関係していることが分かっています。腸内細菌をコントロールして、病気になる前に防ぐ、いわゆる予防医療の社会実装を実現したいと考えています。

このコーナーの取材を担当した  
学生広報大使



普段お会いする機会のない先生方と、研究の内容や裏話などたくさんお話することができ、とても楽しくて貴重な経験になりました。群馬大学にはこんなに面白い研究をされている先生がいるということを知っていただけましたら幸いです。ありがとうございました!

医学部 保健学科1年

關口 知香





# キャンパス紹介

荒牧編

～10号館完成記念 見学ツアー～



群馬大学荒牧キャンパス10号館の新棟が2023年の春に完成しました!!

ここでは情報学部の授業などが行われています。

左側の建物が新棟です。6階まであり、広い教室が設置されています。1年次から情報学部の必修科目が行われています。学年が上がるごとに専門的な講義も増えていき利用する頻度も高いと思うので楽しみにしましょう。2021年にそれまでの社会情報学部から新学部として誕生し、「情報学部」の進化は止まりません!



中に入ると白を基調としているため一気に気分が明るくなること間違いなし!

他学部の建物では見られない吹き抜け構造もポイントの一つです。開放的な空間はここでしか味わえません! 廊下も広いので講義が終わった後は友人と待ち合わせなどで賑わっていることが多いです。

講義室は奥行きができ、大勢が広い空間で一斉に講義を受講できるようにしました。前が見づらいと感じさせることなく、先生が映し出した講義資料を、近くのモニターを通じて見るすることができます。また、ドアが全体的に開くので出入りが楽になりました。



こちらは大学広報スペース

となっており、誰でも自由に利用することができます。

現在は群馬大学でのSDGsに関する多くの取り組みを紹介するパネルがあり、それらについて知る良い機会になっています。また先生方の研究についても紹介されているので自分の興味を探せるチャンスかもしれません。休憩スペースにもなっているのでぜひ活用してみてください!



普段授業で使われる教室とは異なり、各階には交流できるコミュニティスペースが設置されています。主に会議室のような役割をしている場所です。ホワイトボードやプロジェクターを接続できるものもあるので話し合いをする際には便利です。



ジェンダーを考慮した、オールジェンダートイレが設置されました。

群馬大学にはジェンダー問題を探求できる講義があり、学生にとってジェンダー問題は関心が高いものの一つです。



このコーナーの取材を担当した  
学生広報大使



情報学部 情報学科1年  
佐藤 琴美



情報学部 情報学科3年  
北爪 美咲

## 陸上部が14年ぶりに箱根駅伝予選会出場！

## 輝く群大生



左からインタビュアー清水さん（学生広報大使）、陸上部 植村さん、遠藤さん、石原さん、牛久さん

## 取材を受けていただいた部員の方：

植村 勇太さん（共同教育学部4年・前駅伝主将）

遠藤 洋平さん（理工学部4年）

石原 諒人さん（共同教育学部2年）

牛久 賢哉さん（共同教育学部2年）

は結構難しいことだと思います。去年は1人足りなかったのですが、今年やっと10人そろい出場することができました。色々な方からお祝いのメッセージや応援の声をいただき、本当に嬉しかったです。

## ▶大会直前の思い

**清水**：「14年ぶりの予選会出場」には特別な思いがあったと思います。予選会出場に向けた思いや予選会直前に抱いていた思いを教えてください。

**植村**：先輩方もずっと目指してきた舞台だったので、自分たちの代では絶対出場しよう、と決めて全力で頑張りました。

**遠藤さん**：去年は1人足りず悔しい思いをしました。今年は10人そろいことができ、予選出場が決まった時はメンバーみんなで泣いて喜んだのを覚えています。とても感慨深いものがありました。

**石原さん**：予選会出場が決まったレースで、初めて人が走っているところを見て泣きました。それだけ予選会に出たいという意識が強かったのだと思います。さらに、出場するだけではなくしっかり結果を残したいと強く感じました。

## ▶箱根駅伝予選会

**清水**：14年ぶりの箱根駅伝予選会出場おめでとうございます！はじめに、予選会の仕組みについて教えていただきたいです。

**植村さん**：予選会に出場するためには、10,000 mの公認の記録で34分を切る選手を10人以上そろえなければいけません。10人というハードルが高く、国立大学から出場すること



**牛久さん**：高校の時は強豪校に行くことを目標にしていたが、結果的に群馬大学に入学することになりました。正直、自分と箱根は縁がないと思っていましたが、予選会出場というスタートラインに立つことができ、一度諦めかけた目標をもう一度目指せることができ嬉しい気持ちでいっぱいでした。

## ▶予選会に向けた練習

**清水**：予選会に向けてどのような練習を積んできたか教えてください。

**植村**：練習メニューを作成する立場として、10,000mで記録を残すために夏場は距離を踏む練習を、タイムの締め切りが近づく9月に入ってからスピード系の練習を取り入れました。しかし、10,000mの記録を残す練習ばかりになってしまい、予選会で結果を残すためにはもう少し考える必要があったと感じています。

**遠藤**：私は去年の段階で必要な記録(2年間有効)は達成していたので、今年はジョギングなどの基本的な練習の中で距離を踏んで足づくりをすることを心がけていました。予選会出場の基準は10,000mですが本戦では距離が倍になるので、それを含めて可能な限り長い距離を走るようにしました。

**石原**：私も去年の段階で必要な記録を切ることができていました。高校3年生の5月に陸上を引退してから受験が終わるまでほとんど運動することができなかったため、ほぼ0からのスタートになってしまいましたが、みんなからの支えもあり、長い距離を走って体力を少しずつ戻していきました。高校時代に比べ、ジョギングの量が倍になっていました。

**牛久**：私も去年の段階で必要な記録を切っていたので、夏休みや大会前はハーフマラソンに向けた練習を積んできました。ハーフマラソンの2~3か月前からは1日約20km、月間約500km走り、長い距離を完走するために練習を積みました。

## ▶実際に走ってみて

**清水**：予選会を実際に走ってみて、どのような気持ちでしたか。また、何が印象深かったですか。

**植村**：たくさんの方がずっと応援してくれていて、走っていてとても楽しいと感じました。初めてのことばかりでしたが、10kmを自己ベストで通過することができました。後半スピードが落ちてしまいましたが、それも含めて思い出に残る良い経験になりました。

**遠藤**：応援が桁違いに大きかったことが一番の印象です。応援団やお客さんの人数、声量の規模がお祭りのようでした。この中で走れることはとても幸せだと感じ、とにかく楽しもうと決めました。後半は辛かったですが、全体的に楽しく走れました。

**石原**：率直に、とても楽しかったです。私はかなり緊張しや



すいのですが、当日は楽しさが勝って全く緊張しませんでした。初めての経験でとても印象に残っています。

**牛久**：私も最初から最後まで楽しむことができました。チームメイトや観客からの応援を受け、とても大きな舞台だということを実感しながら走りました。楽しさと同時に、上には上がいるので、強豪校にもっと追いつきたいという意欲も湧いてきました。

## ▶予選会による変化

**清水**：予選会の前後でチームや個人にとってどのような変化がありましたか。

**植村**：周りから応援されることがとても多くなりました。来年も頑張ろうという励ましの声をいただくことが増えたと実感しています。個人的には満足いく結果が出せなかったため、来年出場する後輩のために残りの時間でできることを頑張りたいです。

**遠藤**：私も応援が増えたことが大きな変化だと思います。反響の大きさを実感するとともに、これを力に変えて走りたいと強く感じました。また、今までは予選会に出場することが目標でしたが、予選会後は、出場した先にどうすればよいかを考える人が増えたと思います。私にとっては最初で最後だったので、もっと出たいという思いもあります。チャンスがある後輩が羨ましいです。だからこそ、これからもOBという形で応援していきたいと思っています。

**石原**：予選会の前はほんやりとしかイメージできませんでした。実際に出場してみて楽しさを実感したので、来年も出場したいという思いが強くなりました。私は中距離を専門として頑張りたいので、その練習を通して箱根駅伝の力にもなれるような競技力をつけたいと考えようになりました。

**牛久**：自分のため、チームのため、という意識に加え、応援してくれる人のためにも頑張りたいと思うようになりました。今まで引っ張ってくれたエースの植村さんが引退した後、誰が引っ張っていくかを考えた時、2・3年生を中心として一人一人が自覚を持って頑張っていこうという雰囲気に変化したと思います。



## ▶時間の見つけ方・使い方

**清水：**学校の講義など忙しい中で練習されていたと思いますが、どのように時間を使っていたか教えてください。

**植村：**今年は4年生なので教員採用試験がありました。試験直前も練習できるように、去年の段階から計画的に勉強していました。しかし、2次試験前は勉強が忙しく満足に練習することができませんでしたが、その中でも短い時間でできる練習を考えて対応しました。

**遠藤：**私は理工学部なので2年生から桐生キャンパスで練習してきました。桐生は荒牧に比べ、みんなで集まって練習することが比較的少ないので、各々時間を見つけ、一日少しでも走ろうと意識していました。忙しい中でも時間が合う人を見つけ、なるべく陸上部で集まって頑張ってきました。就活や研究メインの生活の中で、陸上が息抜きになっていたと思います。

**石原：**講義が多く大変でしたが、ほぼ毎日部活に参加して練習していました。課題で忙しい時は、限られた時間の中で、自分に今足りないものと短時間でできるものを組み合わせ、その時々合った練習メニューを考えて練習しました。

**牛久：**集中講義が多く、みんなと集合して練習することが厳しい時もありましたが、自分が決めたことはしっかりやろうと常に意識していました。1限がある日は、朝6時から練習を始めたりするなど、どうすれば継続して練習できるかを考えていました。

## ▶今後の目標

**清水：**今後の目標を教えてください。

**牛久：**チームとしての目標は、来年も予選会に出場することです。メンバーは8人残りますが、あと2人記録を切らなければいけないので、厳しくなるかもしれません。ですが、来年は出場するだけでなく、総合順位やハーフマラソンの個人記録を意識して、今年以上の結果を出したいです。個人目標としては、ハーフマラソンで植村さんが持っている群大記録に近づき、更新したいです。

**石原：**チームとして、全員がハーフマラソンを完走できるような力をつけていきたいです。個人目標としては自分の力を高めるとともに、みんなのサポートにも回り、チームを支えていきたいです。また、800m、1,500mに特に力を入れ、関東インカレの基準を突破したいと考えています。

**植村：**予選会を経験して、楽しむことはできましたが、改めて結果を見ると悔しさが込みあがってきます。なので、残された期間で後輩のためにできることを全力でやって、部活を盛り上げていきたいです。後輩に更新されないためにさらによい記録を残したいです。

**遠藤：**私はハーフマラソンなどの長い距離が得意なので、後輩と一緒に走ることで壁を少しでも取り除けたら嬉しいなと思っています。後輩に声をかけて一緒に走って、背中を見ていきたいです。

## ▶群馬大学を目指している後輩に一言

**清水：**最後に、群馬大学を目指している高校生や陸上部に興味を持っている高校生にメッセージをいただけますか。

**植村：**私たちのこれから目標となるものは予選会連続出場です。群馬大学は国立大学の中でも特に環境に恵まれています。赤城山や大学内のトレーニング施設、敷島公園の松林など色々な場所で練習することができます。私たちと一緒に陸上を頑張りたいという方はぜひ入学してください！楽しみに待っています！

**遠藤：**陸上部は素敵な人ばかりで、とても楽しい部活です。陸上大好きなメンバーと共に過ごす時間はとても濃密で、一生忘れられない思い出になると思います。学部やキャンパスが違っても、一つの目標に向かって団結して頑張っています。このような経験を大学生活でできることは幸せなことだと思います。群馬大学に入学したらぜひ陸上部に入って楽しい時間を一緒に過ごしましょう！理工学部、医学部の方も大歓迎です。

**石原：**私は大学に入学してからしばらくの間、陸上部に入るか迷っていましたが、入学してよかったと思っています。楽しいことばかりで、後悔は一つもありません。また、陸上部の特徴として、部活自体の時間はそれほど長くないので、自分の時間が確保しやすいです。陸上を楽しみたいという方も真剣に頑張りたいという方も大歓迎です。

**牛久：**私たちの部活には、高校から陸上を続けてきた人も、大学から陸上を始める人もいます。幅広い競技力の人っていて、全員が輝ける場所だと思います。また、高校のタイムに関係なく誰でも伸びる環境が群馬大学にはあると思います。陸上好きな方も真剣に打ち込みたい方も大歓迎です。一緒に予選会を目指していきましょう！

## ▶応援してくれた 皆さんに向けて

**植村・遠藤**：部活を続けてきて本当に良かったと思う瞬間でした。予選会出場は私たちにとって最高のプレゼントです。これからもチャンスがある後輩たちが羨ましいです。予選会に行くことが大きなモチベーションになるので、今回の予選会を活かしてこれからも頑張してほしいです。このような大きな目標の中で大学生活を送れることは本当にすごいことだと思います。この4年間がチームのみんなと陸上に本気で打ち込める最後の機会だと思います。

**植村・遠藤・石原・牛久**：今回の予選会出場を通して、たくさんの方に応援していただきました。10年以上前のOBもたくさん応援に来て下さいました。期待を裏切るわけにはいかないという思いで全力で走りました。応援して下さった方々に、この場を借りて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



このコーナーの取材を担当した  
学生広報大使



今回の取材を通して、予選会に出場することの大変さと喜び、そして「14年ぶりの出場」に懸けた特別な思いを知ることができました。4年間という限られた大学生活の中で、仲間と励まし合いながら目標に向かって全力で努力することは、とても貴重な経験であり、素敵なことだと感じました。さらなる陸上部の活躍を心から応援しています！

理工学部 物質・環境類1年  
**清水 世蓮**

女流棋士を目指して活躍中の横村さんにお話を聞きました

## 輝く群大生 ～附属中学校編～



群馬大学共同教育学部附属中学校3年  
**横村 日和さん**

Q1. 将棋を始めたきっかけは何ですか？

A 小さい頃からパズルが好きだったこともあり、指導棋士の藤本康一郎先生が主催する高崎市内の子供向け将棋教室に連れて行ってもらったことがきっかけです。先生が優しく、将棋教室が楽しかったことで将棋を好きになり、続けようと思いました。

Q2. 将棋のどのような点が魅力ですか？

A 指し手に正解がなく、将棋に自分の個性を表現できることです。

また、世代を超えていろいろな人と交流を図れるところも魅力の1つです。

Q3. 将来の夢は何ですか？

A 女流棋士になることです。女流棋士は対局のみならず、将棋の普及活動も行います。私の師匠は普及活動にも力を入れている方で、私も普及活動を通して、国内外の多くの人に将棋の楽しさを伝えていきたいです。

(プロフィール)

群馬大学共同教育学部附属中学校3年、群馬県前橋市生まれ。小学1年から将棋を始める。師匠はプロ棋士の戸辺誠七段。2023年8月の第44回全国中学生選抜将棋選手権大会女子の部で優勝。2023年9月の第48回群馬県中学校囲碁将棋選手権大会では、大会史上初となる女子の2連覇を達成。



# イマドキ！留学事情

～留学に関する取り組みをご紹介します！～



GICから群大生に聞きたい！

## 今、何を知り、いかに考え、どう動く？

グローバルイニシアチブセンター(GIC)長 飯島 睦美

この4年間、全世界は、新型コロナウイルス感染症という共通の脅威の前に打ちひしがれ、共に苦しみ、悩み、もがいてきました。それは、今もなお我々全人類に挑み続けているかのごとく、終息することもなくすぶり続けています。そして、全人類を不安に陥れているのはそれだけではありません。2022年2月に勃発したロシアによるウクライナ侵攻、2023年10月、イスラエルに対してのハマスの奇襲攻撃から始まったガザ地区での戦闘。我々の予想をはるかに超える規模で起こり得る難題にどう立ち向かっていけばよいのか、という問いに答えを出すのは決して容易なことではありません。しかし、明確に言えることは、知識を蓄えていることだけでは適切な解決策を導き出すには十分でなく、我々の中に点在する知識を結び付け、それを外界の現実社会にある問題と関連付け、対応策を世の中に臆することなくアウトプットしていく作業に挑む力が必要です。さらに、地球規模の持続可能性が重視される現代、起こる問題も複雑化しており、その解決には、分野横断的、多様なバックグラウンドを持つ者が協働することが必須となっています。自らのアイデンティティをしっかりと持ちながらも、他者を受け入れ、協働できる環境を整える努力を惜まず、地球規模での問題解決に積極的にコミットする人材こそが、これから最も求められる人材であると考えます。どんなにAI技術が高度化しても、外付けの知力で対応し、解決できる問題はほとんどありません。さあ、皆さん、今のあなたは、何を知り、いかに考え、どう動くべきでしょうか？GICでは、そのヒントや刺激となるようなプログラムを提供します。

## 群馬大学の留学支援制度が知りたい！

全学対象の海外派遣プログラムには、夏季・春季休暇の時期に学内の事前・事後研修と組み合わせて行う海外短期研修と、長期交換留学、研究留学、そして学生の自主的な海外活動を支援する群馬大学基金グローバルチャレンジプログラムがあり、留学相談を随時受け付けています。また、JASSOやトビタテ!留学JAPAN等の奨学金のほか、群馬大学学生海外派遣支援事業や群馬大学基金による独自の経済的支援を受けるチャンスがあります。

### 長期交換留学 × トビタテ!

Interview

大学院保健学研究科前期課程2年 大井 瑞葉さん



私は現在長期交換留学制度を使ってイギリスにあるキール大学に留学しています。支援を受けているトビタテ留学JAPANは語学力や成績は問わず、熱意・好奇心・独自性で選考が行われる奨学金制度です。私は将来国際協力の場で働くための下地となる経験を得ることを目的として、多文化共生社会であるイギリスの保健医療を地域

目線から知るため、地域でのフィールドワークを留学計画としました。計画を練るのは大変でしたが、留学担当の先生をはじめ、様々な方に添削やアドバイスなどをいただいて納得のいく計画を作ることができました。残された留学期間、悔いのないよう精一杯頑張ります。

### 群馬大学学生海外派遣支援事業奨励金 × 海外短期研修

Interview

情報学部情報学科2年 瀧川 萌彩さん

私は奨励金の支援を受けて、オンライン留学と実留学に参加しました。オンラインのオーストラリア・ウーロンゴン大学研修では、双方のやりとりを大切にしながら、咄嗟に英語を話す力をつけることができました。また、実留学のベトナムFPT大学研修では、インターンを通してマーケティングやデザインについて学ぶと共に、観光

も楽しむことができました。これらに参加するにあたって、事前・事後研修が手厚かったので、安心して挑戦することができ、学習効果を最大にいかすことができました。



# GFLプログラムは、学生がグローバルフロンティアリーダーとして成長するための貴重で豊かな機会となっています。



GFLet's(クリスマスイベント)



GFLet's(留学生との交流イベント)

## GFLet'sの学生リーダーの声 *Voice*

私たちGFLet'sの学生リーダーは、「学部・学年・国境」を越える国際交流活動により、大学生活をより豊かなものにしていきたいと思っています。私たちが企画する活動やイベントでは、英語を単なる言葉として学ぶのではなく、たくさんアウトプットしてみることで、視野を広げるツールとして「生きている英語」を学んでいきます。さらに、これらの活動は、学生たちがお互いに刺激と影響を与え合い、素晴らしい出会いや活発な交流、斬新なアイデアが生まれるプラットフォームとして機能することを目指しています。今後も学生たちの未知な可能性と創造性を引き出しつつ、多様なGFLet's活動を継続していきたいと思ひます。



群馬県知事特別講演会

## GFLプログラムについて

群馬大学では、グローバル人材育成の一環として、2013年に「グローバルフロンティアリーダー(GFL)育成プログラム」を創設しました。毎年、全学部からトップレベルの学生を選抜し、国際理解、語学力、リーダーシップ力など、さまざまな側面から育成のための教育を行っており、また在学中の海外留学を推奨しています。さらに、GFL生が自主的に企画したさまざまな活動を通じて、実社会でその能力を発揮する機会も設けています。

2022年に立ち上げました新しいプログラム「GFLet's (Giving Fun Learning)」では、留学生を含む学部横断で学生主導のさまざまなイベントや活動を企画し、多様な背景や文化を持つ仲間から学び、共に活動する機会を得ています。また、英語ディベート、多文化交流会やクリスマスパーティーなど、さまざまな教育的・社会的活動を行うことで、学生たちは学び、成長し、仲間との絆を深めています。

## 群馬大学基金グローバルチャレンジプログラム *Interview*

医学部医学科5年 川崎 実代さん

世界から「先進的」と称賛される性教育システムを学ぶためスウェーデンでの活動を計画し、2023年11月に実行しました。具体的には、避妊具の提供や性病検査を無料で行っているユースクリニックや、幼稚園から大学までの教育機関を訪問し、「若者の性の健康を守る」教育や社会システムについて学びました。群馬大学基金より活動費用を援助していただいたほか、先生方から活動内容や現地での危機管理に関してご指導いただきました。この経験を将来のキャリアに役立てたいと思ひます。



グローバル交流セミナー・サマーセミナー



GFLホームページ



@GUNDAIG

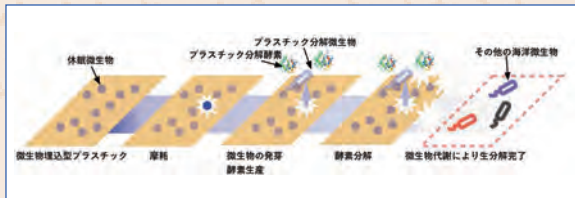


gundai\_gfl





▶2023.7/7



食健康科学教育研究センターの鈴木美和助教らは、海洋プラスチックごみ問題解決の切り札となる、新しいタイプの海洋生分解性プラスチックの開発に成功しました。多くの生分解性プラスチックは海洋では分解しにくいという問題がありましたが、材料にプラスチック分解酵素を生産する微生物を封入することにより、海洋生分解性向上を実現しました。



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/160447>

▶2023.8/3

群馬大学多職種連携教育研究研修センターが、国内唯一の医療安全教育手法に関する拠点として文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」に認定されました。

群馬大学では他にも、生体調節研究所が国内唯一の内分泌・代謝学に関する基礎医学研究所として、同省の「共同利用・共同研究拠点」に認定されています。



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/161765>

▶2023.9/12

群馬県国公立大学学長意見交換会を開催しました。(群馬大学、群馬県立女子大学、群馬県立県民健康科学大学、前橋工科大学、高崎経済大学)



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/165783>

▶2023.10/10

群馬大学理工学部が群馬県太田市とともに推進する実証実験が、総務省「地域デジタル基盤活用推進事業」に採択されました。LoRaWAN（超低電力広域ネットワーク）は、低速小容量ながら超低電力かつ超広域通信を低コストで実現します。例えば、小さなGPSセンサを使って子供の見守りに使ったり、温湿度センサを使って小学校体育館の熱中症予防に使ったり、路線バスの位置や混雑度を検出したり、様々なアイデアが実現できます。



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/165962>

▶2023.10/17

医学系研究科整形外科学分野の高澤英嗣助教らの研究グループが、大学病院など北関東の9つの医療機関と共同研究を行い、高齢患者の健康寿命を延ばすうえで、手術が安全な治療の選択肢であること、手術後に注意すべき患者ケアのポイントを明らかにしました。



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/166100>

▶2023.11/17

一般社団法人国立大学協会 令和5年度第2回通常総会を、群馬県高崎市で開催しました。

▶2023.11/22

生体調節研究所 佐々木伸雄教授（粘膜エコシステム制御分野）が2年連続でHighly Cited Researchersに選出されました。

Highly Cited Researchersは、科学研究の各分野において、高い影響力を持つ科学者を過去10年間の論文の引用データから分析したもので、論文の被引用回数が上位1%に入る論文を複数発表している傑出した科学者を選出しています。



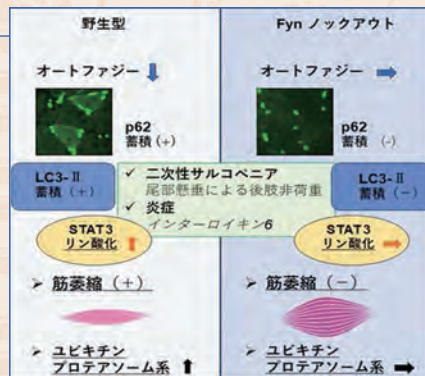
<https://www.gunma-u.ac.jp/information/169952>

▶2023.11/24

医学系研究科内分泌代謝内科学分野の山田英二郎分野主任および同研究科整形外科学分野の佐々木毅志助教らのグループが、チロシンキナーゼ（チロシンリン酸化酵素）のひとつである Fynというタンパク質が筋肉の量を調整しているメカニズムを明らかにしました。



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/170020>



▶2023.11/25、26

創基150周年記念式典・記念事業を開催しました。



<https://www.gunma-u.ac.jp/information/170154>



▶2024.12/22

ネパール大使表敬訪問及び特別講演が行われました。

講演するスベディ駐日ネパール大使

あなたの寄附が群馬大学の未来を創る

群馬大学創基150周年記念事業

## ～食健康科学のイノベーション拠点構想～

群馬大学は、1873年に設立された「小学校教員伝習所」から創基150周年を迎え、その節目を機に「駆けろ未来へ150年の歴史と共に」のスローガンのもと、新しい価値を生み出す教育・研究の拠点を整備することといたしました。

群馬県は豊かな農畜産業と首都圏へのアクセスの良さを背景に、食品産業が地域経済において重要な位置を占めております。一方、本学は食品科学、食品生産工学、医科学、保健学などを基盤にした食健康科学の研究を得意としております。そこで、高付加価値食品の開発、環境負荷の少ない食品生産・パッケージ、健康長寿や病気の予防に資する生活習慣、働く女性のヘルスケアなどを科学的なエビデンスベースで提案します。そのために、荒牧キャンパスに学内外の研究者や産業界、地域の自治体関係者が集い、その成果を地域・社会に還元するオープンイノベーション施設を整備し、食健康科学の新たな価値を生み出す一大拠点をつくる構想を進めております。

本学は全学をあげてこの食健康科学を基軸にヘルスプロモーションを推進し、地域及び地球規模での、健康で幸福な社会の実現に貢献してまいります。このために必要な新施設の建設に対して、皆様の御賛同をいただくとともに、群馬大学基金に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 群馬大学は“食健康科学”を基軸に ヘルスプロモーションを推進します

～群馬大学の知の結集による人類と地球の持続的な幸福の実現に向けて～



### 新たな産業の創出 (エンバイロメンタルヘルス)

- 生分解性プラスチックを使った食品パッケージの開発  
→海洋プラスチックごみ問題を解決

### 健康長寿社会の実現 女性の活躍推進 (ソーシャルヘルス)

- 保健ビッグデータの解析  
→生活習慣病、認知症、フレイルの発症リスク因子の特定
- 働く女性の食習慣に関する疫学研究  
→大豆などの日本食の健康効果を科学的に証明&女性がさらに健康で活躍する社会へ

### 食による健康の維持・増進 (ヒューマンヘルス)

- 糖尿病・高血圧症・脂質異常症の発症機構の研究
- 腸内細菌叢の解析  
→食生活による生活習慣病の新しい予防法の提案



詳細はこちら→

<https://www.gunma-u.ac.jp/information/169579>

群馬大学基金Webサイト

ご寄付はWebからお申込みいただけます  
クレジットカード・コンビニ・銀行振込 対応

群馬大学基金

検索

<https://kikin.gunma-u.ac.jp/html/method.html>



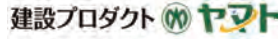
# 群馬大学基金に寄附をいただいた企業・団体様（敬称略）

## 一般財団法人同愛会



群大生の皆さんの  
修学生生活を支援します。

## 株式会社ヤマト



「建設プロダクトのヤマト」は、建設製品をワンストップでお客様に提供します。ぜひヤマトの取り組みを体感してください。



## 上武印刷株式会社



群馬大学生として  
誇りを持って、  
それぞれの場で  
ご活躍ください。

## 株式会社ジーシーシー



みなさんのご活躍を  
応援しております！

## アプライド株式会社



未来を創る全ての学生に高品質の教育を

## 国際ロータリー第2840地区



ロータリークラブは世界で  
そして地域社会で  
良いことをしようという  
職業人の集まりです。  
ウクライナの人たちを  
支援します。

## 星野総合商事株式会社

### 星野総合商事株式会社

明るく希望に溢れる世界の創造を期待します。

## 株式会社原田



将来の日本を担う、優秀な人材になってください。

## 株式会社協正金型製作所



### 株式会社協正金型製作所

皆さんの未来を応援しています。

## 株式会社シィオ



## システムセイコー株式会社

革新的なテクノロジーで未来を切り拓く



### システムセイコー(株)

一流の技術を発揮し、社会に貢献しよう！

## 東京パーツ工業株式会社



当社は、車載関連部品の製造会社です。  
生産は、海外工場が主体となっており、  
海外で働くことに興味がある方も  
是非一度見学してみてください。

## 植木プラスチック株式会社



弊社は真空圧空成形の技術の蓄積により安定成長してきました。この業界の日本一を目指し研究開発を続けています。将来を担う学生の皆さん！是非ものづくりの現場を見学に来てください。

## 群馬大学工業会横浜支部

### 群馬大学工業会横浜支部

世界に羽ばたく群大生を支部一同応援しています！

## 丸三飲料株式会社



丸三飲料株式会社  
MARUSAN INRYU, INC.

未来ある群馬大学生の皆様  
微力でもお力になれますように。

## 株式会社ユタカ製作所



充実した学生生活を送れるよう応援しています。

## 株式会社アイ・ディー・エー



皆さまの明るい笑顔を願い、  
応援したいと思います。

## 王子製鉄株式会社



### 王子製鉄株式会社

電気炉による平鋼製造を通じ、社会インフラを支えています。  
ぜひ一度見学へお越しください。

## 株式会社ヨーユーラボ

### 株式会社ヨーユーラボ

## ミヤズファミリー株式会社

### ミヤズファミリー株式会社

## しげる工業株式会社



学生時代にはかきできないことを是非やり切っていたいただきたいと思います。応援しています！

- 群馬大学医学部第8回卒業生
- あかぎ信用組合
- チヨテック株式会社
- 株式会社上毛新聞社
- 株式会社日本キャンパック
- 桐生信用金庫
- 群馬トヨペット株式会社
- 群馬大学工業会神奈川県川崎支部
- 鶴川興業株式会社
- 群馬大学グローバルフロンティアリーダー(GFL)プログラム在籍学生有志
- 医療法人長岡産婦人科医院
- 株式会社アドテックス

- 株式会社登利平
- 群馬大学FORS国際医療ボランティアの会
- 伊勢崎ガス株式会社
- 株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション
- 第69回荒牧祭実行委員会
- 有限会社柏屋
- 株式会社山口不動産
- 株式会社吉田鉄工所
- 株式会社群電
- 株式会社小間工業
- 株式会社総合PR
- 株式会社野村建設工業

- 株式会社矢野
- 技研コンサル株式会社
- 菊地歯車株式会社
- 群馬県医師会
- 高崎北ロータリークラブ
- 太田市農業協同組合
- 池下工業株式会社
- 邑楽館林農業協同組合

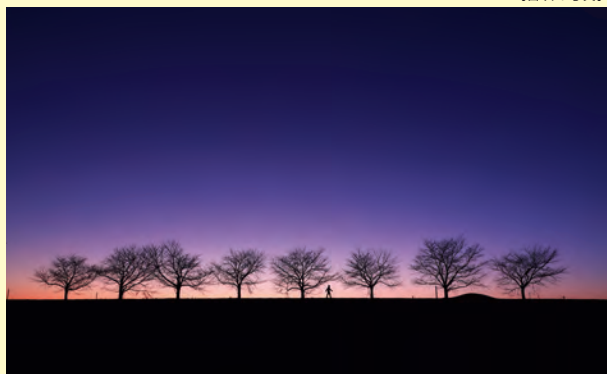
匿名希望の企業・団体  
5法人

※ 2023年1月～2023年12月に寄附申込をいただき、名称掲載の許可をいただいた企業・団体様を掲載しております。

# Photogallery

フォトギャラリー

[目次の写真]



学生広報大使兼  
桐生写真部

撮影 大澤 郁弥さん

桐生写真部  
アカウント

Twitter:@gust\_photo  
Instagram:@gupt\_kiryu.gallery

# Back number

バックナンバー

<https://www.gunma-u.ac.jp/outline/out009/guday>



## 読者の皆様へ アンケートご協力をお願い

群馬大学広報誌「GU'DAY」をご覧いただきありがとうございました。  
よりよい広報誌作成のため、簡単なアンケートにご協力ください。アンケートは3分ほどで終わります。

### 群馬大学オリジナルグッズプレゼント!

アンケートにご協力いただき、プレゼントに応募された方の中から抽選で  
合計10名様に「群馬大学オリジナルグッズ」をプレゼント!是非ご応募ください!

プレゼント応募締切: 2024年5月31日

回答方法: QRコードを読み取って回答してください。

応募方法: アンケートの最後に必要事項を記入してください。



学生広報大使作成  
オリジナルクリアファイル



群馬大学オリジナル付箋  
(色は選べません)



創基 150 周年記念  
桐生織 × 星野富弘氏コースター

#### 群馬大学創基150周年記念

群馬大学卒業生の詩画家星野富弘さんの作品「さざんか」を、群馬県桐生地域の特産品である桐生織で織り上げました。



創基 150 周年記念  
桐生織 × 星野富弘氏トートバッグ  
(限定 5 名様)

#### ●表紙の説明

群馬大学創基150周年にあたり、記念動画を作成いたしました。表紙写真の在学生5名による座談会や、各界で活躍されている卒業生からのメッセージを収録しています。ぜひご覧ください。

協力学生 (右から)  
共同教育学部 和田山愛鈴さん  
理工学部 菊地 涼太さん  
情報学部 北爪 美咲さん  
医学部医学科 宮下優太郎さん  
医学部保健学科 二宮 住濃さん



群馬大学 広報誌

## GU'DAY [グッディ]

発行元: 国立大学法人群馬大学総務部総務課広報係

発行日: 2024年3月

TEL: 027-220-7010 (7011)

Email: s-public@ml.gunma-u.ac.jp

URL: <https://www.gunma-u.ac.jp/>